

RS ウイルス感染症

RS ウイルスは乳幼児を中心に下気道感染により肺炎や細気管支炎などの重症な症状を引き起こすことから、乳幼児において重要な病原体と考えられます。RS ウイルス感染症は感染症法で 5 類感染症（定点報告対象疾患）に位置付けられており、また、埼玉県病原体サーベイランス実施要領(https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/180394/4byougentai_1.pdf)では小児科病原体定点の医療機関に対して検体採取を依頼している感染症のひとつです。

2020 年以降の埼玉県の RS ウイルス感染症の定点当たり報告数を図に示すと、2021 年に大きな流行があったことが確認でき、今年も第 20 週から定点当たり報告数が急増しています。

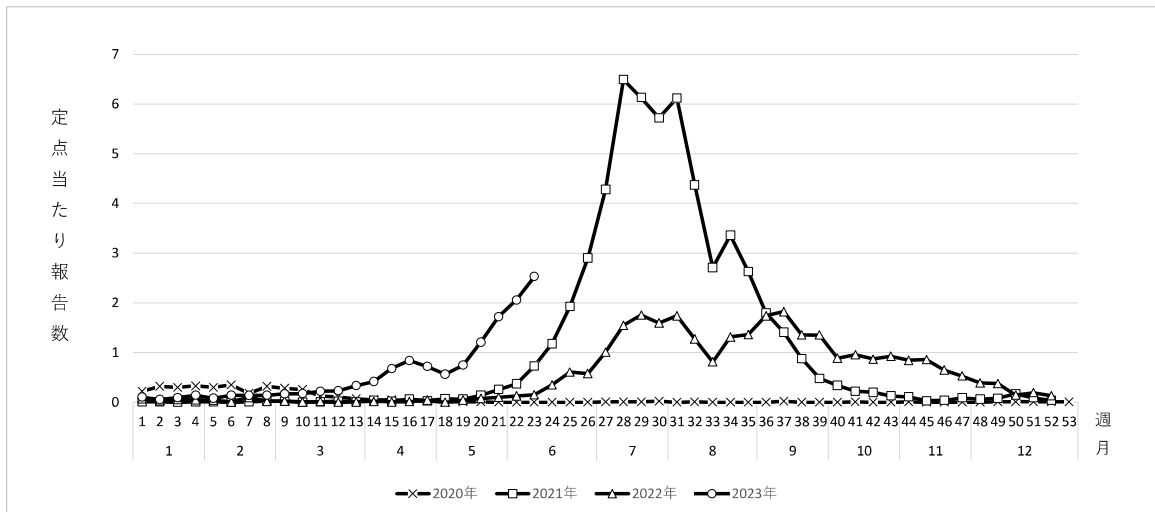


図 RS ウイルス感染症の定点当たり報告数

RS ウイルスは A と B のふたつのサブグループに分けられます。2020 年以降に埼玉県衛生研究所に搬入された検体からのサブグループ別 RS ウイルス検出状況は表のとおりです。2021 年の流行時はサブグループ A が多く検出されていましたが、2023 年はサブグループ B が多く検出されている状況です。

表 サブグループ別 RS ウイルス検出状況

	2020年	2021年	2022年	2023年
サブグループA	11	17	5	1
サブグループB	2	4	0	12
合計	13	21	5	13

病原体の検出状況が過去 3 年と異なる傾向であることから、発生動向については注意が必要と考えられます。